平成２１年度　手づくり郷土賞（一般部門）［全１７選］

「世代と世代をつなぐ架け橋「旭橋」

（北海道・旭川市）

国道４０号として北海道北部と旭川中心部をつなぎ、街のシンボルとなっている旭橋の歴史や魅力を発信し、地域の財産として後世に語り継ごうと、平成１７年に有志２３名が「旭橋を語る会」を結成し、市民公開講座、総合学習や塗装工事の現場体験、観光バスガイドへの講義等を行っています。この他、旭橋及びその周辺の清掃活動や花園づくりには、一般市民や学生などのボランティアの他、小学生も参加するなど、活動が広く浸透し、今年７７歳の喜寿を迎える旭橋を中心に地域交流の場が形成されています。

国登録有形文化財旧上藻別駅逓所

（北海道・紋別市）

駅逓所とは、北海道の開拓時代に物資や郵便物を扱いながら馬と共に宿泊出来る交通の拠点です。大正１５年に建設された駅逓所を当時の姿に復元し、鴻之舞鉱山の歴史を保存する資料館として後世に語り継ごうと平成１６年に地元有志５人で「上藻別駅逓保存会」を立ち上げました。復元に当たって、会の熱い思いが地域住民の共感を呼び、初期からボランティア参加が広がり、翌年には歴史博物館として開館、以来１万６千人を超える入館者があります。また、この他の周辺施設も手づくりで復元・整備し、中学生の総合学習、ツアーコース、韓国映画のロケ地になるなど地域交流・歴史の伝承活動の場となっています。

歴史といで湯の”いいざか温泉”まちづくり活動

（福島県・福島市）

福島市飯坂町地域では、平成１４年度から福島市による「街なか整備事業」が行われました。温泉地の活力を取り戻すため、町内会や温泉旅館組合等で構成される「飯坂町周辺地域づくり協議会」では、整備された温泉街に花壇の設置、廃屋旅館前に花壇やベンチを設置した「ひと休み処」を設け、地域住民と観光客の交流の場を提供し、地域に賑わいを創出しています。また、定期的に地域の全３，５７０世帯へ協議会ニュースを配付し、地域住民の意識高揚を推進しています。その結果、地域住民が住宅を修繕する際に街並み景観に配慮して外観を修景するなど、地域一丸となったまちづくりへ発展しています。

22世紀の都市の森づくり

（東京都・調布市）

神代植物公園では隣接する区域を「都市の森づくりエリア」と位置づけ、植樹作業から育成管理作業までの約１００年間で世代を重ねた森づくり活動をボランティア・企業・東京都の三者の協働により展開しています。ボランティア団体である「２２世紀の森づくり・神代」では森の基礎を作るため平成１２年からの５年間で５００～６００本を植栽し、野鳥や昆虫が増加しており、平成１９年からは、夏休みのイベントとして昆虫観察会、野菜栽培などの企画・実施を行っています。家族で活動に参加する住民も増え、年間の活動日数は平成２０年度で５８回（延べ参加人数８３９人）と活発な活動により着実に成果を上げています。

山古志「花々とともに進む心の復興」

（新潟県・長岡市）

山古志地域は中越大震災により、生活や、棚田をはじめとした美しい景観を一瞬に失いました。「山古志花を楽しむ会」では、少しでも「心の復興」に役立つよう山古志全域の１４集落に及ぶ国道、県道、市道沿道の路肩、空き地を活用して、花苗の植栽、花の種まき、球根植えなどを行い、総勢５００名の老若男女が参加しています。花いっぱいの取り組みは山古志地域以外の方々との交流する機会を創出するとともに、震災による「心の復興」の着実な進展に大きく貢献し、山古志地域を訪れる約２万人を超える人たちを迎えています。

小さなムラにある大きな希望
～「いつまでも住み続けられる法末」を目指して～

（新潟県・長岡市）

昭和６２年に策定された「集落活動計画」により、廃校となっていた小学校を地域交流の拠点として「法末自然の家やまびこ」として復活させました。法末集落全住民４２世帯による「法末振興組合」によって運営されており、田植え体験、動植物自然観察、稲刈り、雪国体験など四季折々の催しにより年間約１，５００人に利用されています。これまで２０年間、地域が一体となり中山間地の活性化に精力的に取り組んでいます。中越大震災で被災した際にもいち早く修復に取り掛かり、地震から１年半で「やまびこ」の再オープンを果たし活動を続け、帰村を諦めかけていた住民も元気を取り戻しています。

回船問屋群のある街並み　富山市岩瀬のまちづくり

（富山県・富山市）

港町として栄えた岩瀬地区は国指定重要文化財（森家）をはじめ、回船問屋が多く残る歴史的風情あるエリアでしたが、近年は老朽化、生活様式の変化に伴う建替え改修によりその景観は失われ、賑わいもなくなりつつありました。危機感をもった地元住民は、平成１１年に「岩瀬大町新川町通り街並整備推進協議会」を設立し、修景整備方針を富山市へ提出し、市はそれに応えるかたちで平成１４年度から舗装、街灯、サイン、無電柱化、建築物の修景を行いました。修景整備の結果、観光客が整備前の約３倍に増加し、住民の観光案内ボランティア活動につながり、賑わいを取り戻しています。

菜の花による地域活性化（菜の花公園周辺）

（長野県・飯山市）

文部省唱歌『朧月夜』に詠われた風景と言われる飯山市では、瑞穂地区の約８割の家庭が参加する「菜の花さかせるかい」が中心となり菜の花公園の景観形成を行っています。春の開花時期に向けて６～９月に畑起こし作業、９月に肥料、種まき作業、そして５月の連休に開花するように、花の先端部を刈って開花ペース調整、雪が多い年は３月下旬に雪消し、雪が少なければ追肥により開花を遅らせるなど、約９haの大自然を相手に平成４年から年間を通じ良質な管理を行っています。現在千曲川を挟んだ対岸地区にも活動が拡がり、約１４haの菜の花が栽培されるまでになり、約７万人が訪れる名所となっています。

平成２１年度　手づくり郷土（ふるさと）賞（一般部門）［全１７選］

祭り街道と自然保護

（長野県・阿南町）

６５０年余の歴史を持ち国の重要無形民俗文化財に指定される祭りが残る新野地区では、地元の阿南第二中学校の生徒が中心となって祭り街道と呼ばれる国道１５１号と周辺の紅樹山や３つの河川で自然保護と環境整備のためのクリーン作戦を昭和４６年から実施しています。平成８年には住民の有志が「祭り街道の会」を立ち上げ、地域住民や企業等も参加する幅広い世代の人々が自主的に草刈りや自然保護のための清掃活動など実施しています。この結果、三世代交流が深まるとともに、ネットワークの広がりにより、現在では３４団体１６０名のボランティアが組織化されるまでになりました。

希少種の保全と里山の復元を通じて自然と人間との共生を目指す

（静岡県・浜松市）

貴重な動植物が生息している椎ノ木地区に民間開発の計画が持ち上がったことが契機となり、地域住民の自然保護の機運の高まりが市を動かし当地区を保全することとなりました。保全方法を検討した「椎ノ木谷地区緑地保全市民検討委員会」のメンバーが主体となり、「椎ノ木谷保全の会」が平成１５年に結成され、市との協働により自生する貴重種の保全のほか、里山の復元を実施しました。市は観察路などの基盤整備を担い、「椎ノ木谷保全の会」は現在１００人近い会員による維持管理や自然体験学習、団体職員研修の受け入れや講師派遣などの活動を実施しています。

未来へつなぐ清水と緑の郷づくり

（滋賀県・高島市）

高島市川島地区は、安曇川の清流や豊富な地下水に恵まれた地域であり、その地域資源を活かし、「清水と緑の郷づくり」をテーマに、清らかな水の流れと人々が憩える水辺空間の創造を目指す取り組みを行っています。平成９年には、地区で「まちづくり協定」を締結し、県に「近隣景観形成協定」として認定されたことを受け、「川島区自治会」で特別事業基金（1,000円/月・戸）を創設し、行政と協働で桜並木の植樹や竹林公園の整備などの景観整備を行い、整備された施設については、住民主体で維持管理、利活用を継続して行っており、住民が地域に愛着をもてる魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

人にやさしい良好な住環境の創生に向けて

（奈良県・生駒市）

鹿ノ台地区は、昭和４０年代に土地区画整理事業で開発された地域であり、良好な住環境を保全するため、平成２年に住民発意で地区計画を導入しています。「鹿ノ台自治連合会」は、自然環境に対する住民意識の高まりとともに、平成３年より鹿ノ台地区の公園や道路沿いのオープンスペースにおいて花壇の維持管理を定期的に行うとともに、公園の樹木や街路樹の剪定を行っています。平成１９年からは、市が管理する荒廃した周辺緑地の清掃活動をはじめ、里山的な自然環境へ再生する取り組みを実施するなど、まちの景観保全に向け、継続・発展した取り組みが進められています。

尾道みなとまちづくり

（広島県・尾道市）

尾道糸崎港（尾道港区）は、ＪＲ尾道駅に近接しており利便性に優れ、観光地にも近いこともあり、新たな魅力ある親水空間として港湾緑地などシーサイドラインが整備されました。「尾道観光協会」は、夜間寂しい港湾の賑わい創出のために平成１４年より港湾緑地にろうそく灯籠によるライトアップや対岸の休眠状態の造船クレーンのライトアップ、旧海軍倉庫を活用した骨董市などのイベントを実施しています。市内の小中学生を対象に「海の図画・ポスター展」の開催、地元の小学生による植栽活動も進めており、観光客だけでなく地元住民にも愛される港となるような活動を実施しています。

みなとオアシス交流広場

（徳島県・小松島市）

みなとオアシス交流広場は、平成１１年の旅客航路移転に伴い遊休化した徳島小松島港（本港地区）の港湾緑地空間の活用に向け、市民、行政、専門家、NPO等の協働により、ワークショップの手法を用いて整備されたものです。「特定非営利活動法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」は、みなとオアシス交流広場を活用し、多彩なアイデア等を取り入れた、ビジターハーバーフェスティバルや、こまつしまうまいもん祭りなどを継続的に開催し、みなとの魅力を効果的に発信する活動に取り組んでいます。活動の成果として交流人口は、平成１３年度のゼロから平成２０年度に約１３万人まで増加しています。

むれ源平石あかりロード

（香川県・高松市）

平成１６年に結成された、「むれ源平まちづくり協議会」は、牟礼町の原風景を、源平の史跡文化と庵治石を中心とした石材産業文化と位置づけ、この二つの概念を基に牟礼・庵治街道沿線で事業を展開しています。同会は、地域の方々や地元の中学生と一緒に、史跡の保存活動やボランティアガイド活動、道並みや駐車場の整備についての検討会、地域のガイドマップの作成等を行い、石あかりロードの整備においては、地場産業である石材を活用した改修計画について提言を行っています。石あかりを灯し、史跡散策、石あかり散策を楽しむ「むれ源平石あかりロード」も、平成１７年の誕生以来、継続的に開催されています。

どんぽの森公園

（福岡県・大野城市）

どんぽの森公園は、廃棄物が不法投棄され荒廃地と化し、住宅街としての環境を損ねていたエリアを、住民からのアイデアを元に自然を活かした公園として整備されました。地元住民約８０人が「どんぽの森公園を育てる会」を構成して、年２回の清掃作業の他、草刈り、草取り、池の藻取りなど公園の維持管理を自発的かつ日常的に行い、いつもきれいな状態が保たれています。近隣の小学校ではビオトープ体験や花植などの課外授業の場としても活用されており、人と自然が交流する場としての役割を担っています。

平成２１年度　手づくり郷土賞（一般部門）［全１７選］

「水郷ひた」観光に寄与した花月川の川づくり（千年あかり）　（大分県・日田市）

日田市豆田地区を流れる花月川の河川整備は、観光に寄与する川づくりが望まれていたため、計画の段階で行政、地域住民等からなる豆田地区川づくり懇談会を設立し、官民一体となり川づくりに取り組みました。「千年あかり実行委員会」では平成１７年に河川整備の完成を祝う竹灯籠を実施したところ、観光客や地元から好評を博したことから、同年より「千年あかり」として毎年実施し、今では毎年１４万人の人々が訪れる日田の風物詩となっています。祭りは、豆田町の人々や企業、市民団体など５，０００名を超えるボランティアの人々に支えられており、河川愛護の啓発や「水郷ひた」への郷土愛にも繋がっています。

平成２１年度　手づくり郷土賞（大賞部門）［全　２選］

花と1万人の会「ちょっと素敵なまちづくり」　（茨城県・下妻市）

「花と１万人の会」は鬼怒川の河川敷に美しい花を咲かせることにより、魅力的で潤いのあるまちづくりを目指した住民主体の活動を展開しています。毎年春におこなわれる「花とふれあいまつり」は、今年で１８回目の開催で、県内外から多くの来訪者があり、年間利用者はそのほかのイベント時を含め３万人に達するなど、地域ふれあい交流点・観光の名所として定着しています。また、まつりの中で絵はがきや花の種などをセットにした「花の株券」を販売し、イベント・花畑整備の活動資金とするなど創意工夫をしております。平成１４年の受賞以降、鬼怒フラワーラインの通年管理を行う協定を鬼怒川で初めて締結する等、環境美化・河川環境の保全にさらに力を入れて活動しています。

水木しげるロード　（鳥取県・境港市）

妖怪をテーマにした水木しげるロードは、平成９年に受賞以来着実に観光客数を増やし、受賞当時４０万人程度の観光客数が今や１７０万人を上回るほどになっています。その間妖怪ブロンズ像の増設や妖怪の泉、水木しげる記念館の建設などインフラ整備も進んでいます。「水木しげるロード振興会」は、平成１０年よりそれまで行政主体で実施されていたブロンズ像の清掃や大幅に増えた観光客のための駐車場や店舗トイレ貸出等の対策、ブロンズ像の盗難・いたずら防止の巡回を実施してきており、最近では、ゲタ積み大会やゲタ飛ばし大会などのイベントも開催し、ロードの発展や賑わいを下支えしています。